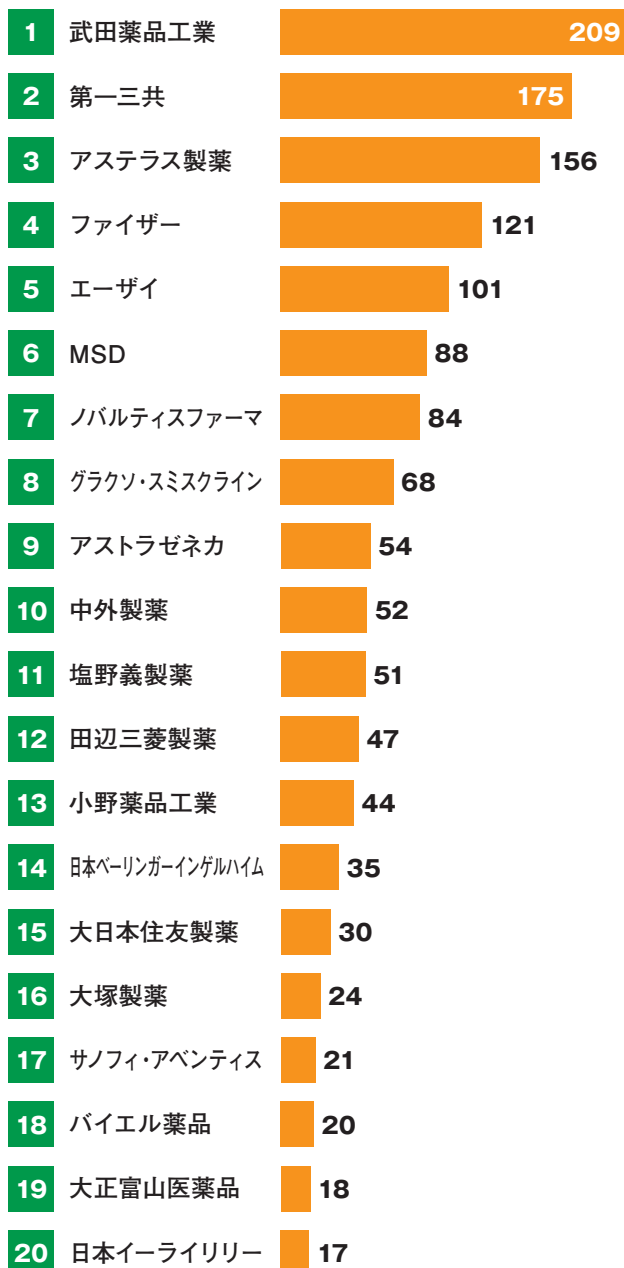


## 優れているMR〈全診療科〉

## 武田のMR力復活 他社を引き離し

Q この製薬会社のMRは優れている、と評価できる企業名（3社まで）教えてください。



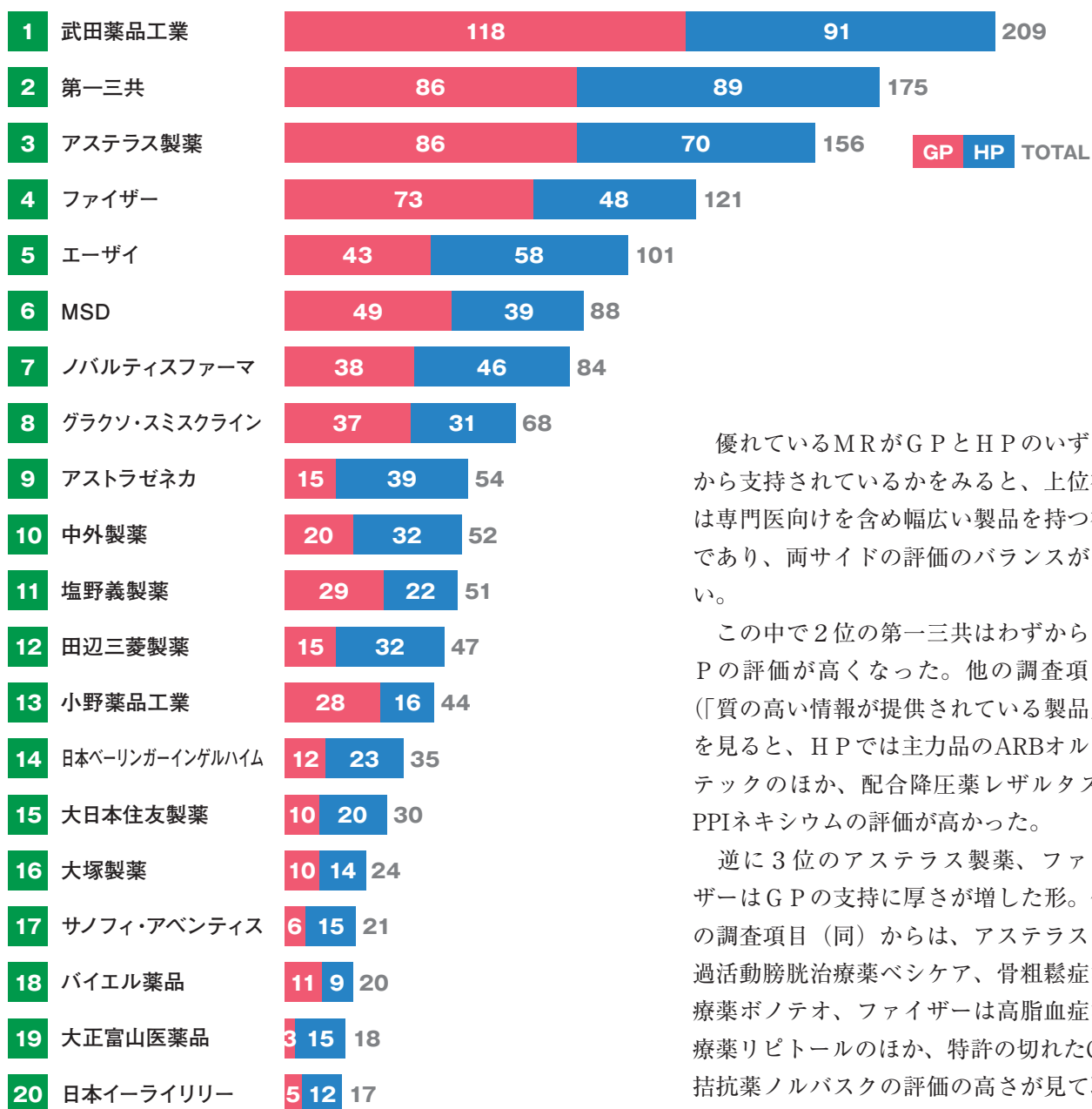
定点調査ではないので単純比較はできないが、11年2月号に掲載した前回調査と比較すると、上位5社の順位は同じだが、猛追を受け首位明け渡しもあるかとみられていた最強MR集団の武田薬品が今回、2位以下を引き離しにかけ、一歩先行く姿を見せた。若手が多く経験の浅さが猛追を受けた背景とみられていたが、今回再び200人以上の支持を集め、武田のMR力復活の兆しとも受け取れる。

同社は、新規糖尿病薬DPP-4阻害薬ネシーナ、睡眠導入剤ロゼレム、配合降圧薬ユニシアなどの新薬発売が相次いだ。他の調査項目（「質の高い情報が提供されている製品」）からはPPIタケプロン、降圧薬プロプレスのMR活動を評価する声も目立ち、そのへんが同社のMRの評価にもつながった可能性がある。

優れているMR〈GP、HP内訳〉

# 上位社はGP、HPの評価バランス良く 得意領域、製品戦略の違いで支持層に差

Q この製薬会社のMRIは優れている、と評価できる企業名（3社まで）教えてください。



優れているMRがGPとHPのいずれから支持されているかをみると、上位社は専門医向けを含め幅広い製品を持つ社であり、両サイドの評価のバランスが良い。

この中で2位の第一三共はわずからHPの評価が高くなった。他の調査項目（「質の高い情報が提供されている製品」）を見ると、HPでは主力品のARBオルメテックのほか、配合降圧薬レザルタス、PPIネキシウムの評価が高かった。

逆に3位のアステラス製薬、ファイザーはGPの支持に厚さが増した形。他の調査項目（同）からは、アステラスは過活動膀胱治療薬ベシケア、骨粗鬆症治療薬ボノテオ、ファイザーは高脂血症治療薬リピトールのほか、特許の切れたCa拮抗薬ノルバスクの評価の高さが見取れる。

## 優れているMR〈診療科別〉



この製薬会社のMRは優れている、と評価できる企業名（3社まで）教えてください。

### 一般内科

順位	企業名	GP	HP	人数
1	武田薬品	26	22	48
2	第一三共	15	22	37
3	アステラス製薬	14	14	28
4	MSD	13	11	24
5	ファイザー	15	8	23
6	ノバルティスファーマ	6	12	18
7	塩野義製薬	7	3	10
8	グラクソ・スミスクライン	5	4	9
8	小野薬品	5	4	9

武田薬品の復活は、強みの内科領域でトップに返り咲いたことに表れているとあってよいだろう。前年トップの第一三共と入れ替わっただけでなく、半数近い医師から支持される結果となった。今回2位の第一三共の支持医師数（=37人）は前回調査（=38人）とほぼ同数。このことから武田薬品の躍進ぶりが見て取れる。

3位～5位は前回と同じ顔ぶれだが、順位は前回3位のアステラスが今回も3位、前回5位だったMSDが今回4位、前回アステラスと同数3位だったファイザーが今回5位となった。なお、3位～5位の企業は全社とも前回調査よりも支持医師数は増えていた。

### 呼吸器

順位	企業名	GP	HP	人数
1	グラクソ・スミスクライン	21	12	33
2	アステラス製薬	19	13	32
3	アストラゼネカ	5	19	24
4	第一三共	12	6	18
4	ファイザー	7	11	18
6	塩野義製薬	8	8	16
7	MSD	12	3	15
7	武田薬品	9	6	15

今回は上位2社の接戦となり、前回2位のグラクソ・スミスクラインがトップとなった。喘息治療薬のアドエアのMR活動への支持とみられる。

2位はアステラス製薬で5位からの急浮上。アストラゼネカとともにコ・プロする喘息治療薬シムビコートMR活動が評価されたものと考えられる。前回トップのファイザーが順位を下げたのは禁煙補助薬チャンピックスへの評価が一巡したことが背景にあるようだ。

### 循環器

順位	企業名	GP	HP	人数
1	第一三共	23	24	47
2	武田薬品	22	22	44
3	アステラス製薬	13	15	28
4	ノバルティスファーマ	14	13	27
5	ファイザー	14	8	22
6	MSD	8	11	19
7	日本ベーリンガーインゲルハイム	4	8	12
8	塩野義製薬	7	2	9

各社とも高血圧治療薬のARBや高脂血症治療薬のスタチンといった売れ筋を持ち、ここは激戦区。ランクインした社の顔触れは前回と変わらず、評価がほとんど固まっている診療科といえる。

前回同様に首位は第一三共で半数近い医師の評価を獲得しているが、2位の武田薬品が猛追、僅差で追う形となった。そのあおりを他社が食った形で、2位と3位の差が開いた。

### 消化器

順位	企業名	GP	HP	人数
1	武田薬品	26	18	44
2	エーザイ	11	21	32
3	第一三共	18	12	30
4	MSD	9	12	21
5	アストラゼネカ	5	15	20
6	アステラス製薬	8	11	19
7	田辺三菱製薬	5	7	12
8	中外製薬	1	6	7
8	ファイザー	6	1	7
8	塩野義製薬	3	4	7

PPIタケプロンを持つ武田薬品の強さは盤石。PPIパリエットを持つエーザイも前回と変わらず2位をキープした。そして3位には、11年9月に新発売した新規PPIネキシウムを手掛ける第一三共がランクインし、存在感を示した格好だ。第一三共とともにネキシウムを展開するアストラゼネカはHPで評価が高かった。

### 整形外科

順位	企業名	GP	HP	人数
1	ファイザー	18	15	33
2	アステラス製薬	19	11	30
3	武田薬品	14	13	27
3	エーザイ	11	16	27
5	中外製薬	13	10	23
6	第一三共	9	12	21
7	田辺三菱製薬	6	12	18
8	久光製薬	10	6	16

前回ランクインしたファイザーが、トップだった武田薬品を押しつけてトップになったのは、武田とコ・プロする抗リウマチ薬エンブレルのほか、末梢性神経障害性疼痛の効能を取得したりリカの活動の影響があるからだろう。

アステラス製薬は2位をキープ。運動器領域が主力の1つだが、09年に骨粗鬆症治療薬ボノテオを発売しており、その活動が評価されたとみられる。貼付剤の久光製薬が今回ランクインした。

### 神経内科

順位	企業名	GP	HP	人数
1	武田薬品	21	10	31
2	エーザイ	11	16	27
3	グラクソ・スミスクライン	9	13	22
3	ノバルティスファーマ	8	14	22
3	第一三共	9	13	22
6	アステラス製薬	13	6	19
7	ファイザー	13	5	18
8	大塚製薬	5	8	13

前々回は「泌尿器」、前は「外科」、今回は「神経内科」に代えて調査した。武田薬品がトップなのは意外な印象を受けるが、この領域では睡眠導入剤ロゼレム、ヤンセンファーマとコ・プロする認知症治療薬レミニールがある。今回、どのような製品で、どのような活動により評価されたのかは、他の調査項目からもつかめなかった。エーザイ、ノバルティスファーマ、第一三共は、いずれも認知症治療薬を扱う社であり、それらMR活動が評価されたためだろう。